

## (祝 辞)

皆さんこんにちわ、只今ご紹介を賜りましたNPO法人埼玉県日中友好協会理事長の中崎と申します。

私は、先ず、この度の鴻巣市日中友好協会の設立総会にお招きをいただき光栄に存じますと共に設立を衷心よりお慶びを申し上げます。

ここまで設立のためお骨折り下さいました発起人の皆様のご苦労に対して敬意と感謝申し上げます。

鴻巣市は、私が申すまでもなく、人口12万人の埼玉県内にあつては中核都市として発展している街でございます。また長い歴史を持つ「人形の町」として多くの市民の方々のご誇りとなり、そして現在は「花と人形の街」として県内でも有数の文化都市となっております。

こうした歴史と文化を育み、そしてこの街に移り住んできた多くの市民のみなさんが、共にコミュニティを形成し、市民が共同してまちづくりに勢を出しているという姿を強く感じています。

この度、この街に「日本と中国」との友好を市民の間で進めようと言う新しい協会が設立されたことあらためて慶びと敬意を表します。

埼玉県内には、現在15の市に地区協会があり、総て埼玉県日中友好協会に加盟しています。設立の暁には、鴻巣市日中友好協会もぜひ埼玉県日中友好協会16番目の地区協会として加盟していただきたいと願うばかりです。

これまで若干の地区協会が解散しましたが、これには共通した背景がありました。一つには、組織の高齢化です。新しく会員の入会がないとすれば、毎年総会毎に歳を重ねていくわけです。年に10%程度の会員が減少すると言われていました。2つ目が、組織運営や活動に当って、「オンブにダッコ」という語がありますが、組織や活動の多くを行政側に委ね過ぎたという地区協会側の共通の問題もあります。

我が協会は、どこまでも市民の組織であり、草の根の活動であります。会員のための組織ですので、特定の人だけに頼りがちですが、「できる人が、できる範囲でできることをやっていく」という「手分けの考え方」が初歩的でも大事なような気がします。これが私が地区協会から学んだ教訓の一つです。

本日、誕生する鴻巣市日中友好協会の目出度い席ですので、もっと展望の開けるお話をした方が良かったかも知れませんが何卒ご容赦下さい。

さて、日本と中国は、2000年来の交流の歴史があると言われます。この間には、日清戦争や日中15年戦争といわれた大変悲惨な歴史もありましたが、1972年、当時の田中首相と中国の周恩来首相によるあの「日中共同声明」によって歴史的な国交正常化が図られました。その後の両国の関係はご承知のとおりです。中国は、文化大革命を経て、政治・経済、貿易をはじめ教育文化、科学技術など多くの分野において「改革開放政策」が進み、日中両国は、とりわけ貿易や人的交流は、飛躍的に伸び、互恵平等は日中相互に利益をもたらしました。中国は今や国民総生産(GDP)では、日本を抜いて世界第2位となりました。

一方、中国では、国民間の所得格差や地域格差の矛盾点も山積しています。昨年9月に起こった、いわゆる「尖閣諸島事件」は近年にない大きな波紋が生じました。この影響により、日中の政府関係事業や民間交流事業の中止や延期が相次ぎ、日本への観光団の減少など日本の国内経済にもかなりの影響を及ぼしました。

一方この事件は、両国間に今尚、歴史的な感情の食い違いすなわち齟齬もあることを浮き彫りにしたような気がします。日中両国の関係を見つめ直す一つの機会になったとも言えましょう。日中の次世代を担う若者たちの交流をもっと盛んにしていく事は日中両国関係者の責任でもあります。

私たちは、地域と民間の関係を大切にしていこうことを基本的な理念として、多くの市民や会員の皆様のご賛同を得て、どこまでも民間のレベルでこの友好事業をすすめていきたいと願っています。

結びに、誕生する「鴻巣市日中友好協会」が益々立派に育つように力を発揮し、日中の民間の懸け橋となり地域に貢献できるようご期待申し上げますと共にご臨席の皆様のご健勝ご祈念申し上げ、私からのお祝辞とさせていただきます。ありがとうございました。

2011年5月29日

特定非営利活動法人埼玉県日本中国友好協会 理事長 中崎 忠